

UMI協議会NEWS

うみ協議会ニュース

UMI協議会NEWS 創刊に寄せて

マリンレジャーの楽しさを伝える
海先案内人

UMI協議会 会長 田久保雅己

近

年、「海離れ」が叫ばれています。

「磯浜は転ぶとケガをするから子どもを磯浜に連れて行かない」、「砂がカラダにまわりつくのが嫌だ」といって海水浴は避けられ、「浜辺の波打ち際は、子どもはくるぶしまでしか入ってはならない」という考え方が、いつの間にか、まことしやかに囁かれるようになってしまいました。

磯浜はさまざまな海洋生物が生息しており、好奇心あふれる子どもたちにとってきわめて楽しく、生命の原点や多様性に触れる絶好の場所です。また海は、水中へ全身をひたすことで、爽快感や、波や潮の流れ、強さを体感し、大自然の中で人間はちっぽけな生き物だということを知り、危険を回避する術を学ぶ場所でもあるのです。

UMI協議会のスローガンは「(U)海に(M)みんなで(I)行こう」です。

確かに海を軽んじると、海は厳しく、危険を伴う場所でもあります。しかし、徹底した安全策を講じて海に出ることによって得られる爽快な喜びと自由は、けっして陸では味わえないものです。また、海の向こうへ行こうという未知の世界への冒険心は、人生航路に屈しない勇気と希望を与えてくれるものです。

UMI協議会は平成20年(2008年)にマリンレジャー関連13団体が集まって設立され、現在では協賛企業も含めて

27団体となりました。ボート、ヨット、ボードセーリング、水上オートバイ、サーフィン、ダイビングなどに加え、SUP(スタンドアップパドル)など新種の競技団体も加盟し、多様なマリンレジャーを束ねる組織として進化してまいりました。

加盟団体のすべての愛好家の人数を合算すると、150万人とも200万人とも推察されており、それぞれの種目において、健全なマリンレジャーの普及振興に努めております。四方を海に囲まれた我が国のより多くの皆さまに、安全にマリンレジャーを楽しんでいただきたいと願っているのです。

海に蓋をするのではなく、皆さまを自由な海へ誘う、海先案内人の集まりなのです。美しく豊かな海を守りながら、これからも楽しい洋上へご案内します。

さあ、海に、みんなで行きましょう！

*

このたび、私たちの日頃の活動をお伝えるために、この『UMI協議会NEWS』を発行する運びとなりました。本号はその創刊号となります。年に3回程度を目途に発行予定で、関連団体や一般メディア、行政関係各署に送付されます。何卒、ご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。



海とマリンレジャーを愛する すべての人を応援します UMI協議会

『UMI協議会NEWS』の創刊にあたり、本協議会の生い立ちと活動についてまとめてみました。日本国民に広く海洋性レクリエーションを普及させたい——というUMI協議会が取り組む課題は、社大でハードルが高いものですが、地道な取り組みが一步步歩みを進めるものと信じて、これからも海を愛する人を応援する活動を続けていきます。

UMI協議会の発足

平成20年(2008年)にUMI協議会が組織化された背景には、前年の平成19年4月に制定された海洋基本法があります。この基本法では、海洋教育の推進、海洋性レクリエーションの普及の必要性が明確化されました。しかし当時のマリン関連団体は、事業協力や情報共有が十分でなかったことから、効果的な海洋性レクリエーションの普及促進を図るための横断的連携組織として、国土交通省の旗振りの下で設立されたのがUMI協議会です。現在、活動会員は右記の16団体で構成され、このほかに11社の賛助会員が加盟しています。

これらの関連団体が連携を深め、情報発信や新たな楽しみ方の創造を通して、舟艇利用振興、マリンスポーツの振興および海洋教育の推進を図り、海を身近に感じることができる国民生活の実現を図ることを目的としています。

UMI協議会の活動

海洋性レクリエーションに関する情報発信、関連するイベントの開催や協力などが主な活動内容ですが、協議会が発足してからの15年余りの間には、次のような活動を行ってきました。

■「海イコ!」

マリンレジャー関連情報をより多くの方に発信するために、WEBサイト「海イコ!」を開設。UMI協議会や活動会員が実施しているイベント情報を掲載するとともに、SNSを活用した情報発信を行い、マリンレジャーの魅力を伝えています。

■「海イコ! マリン体験乗船会」

2024年5月23日、東京・若洲ヨット訓練所にて、UMI協議会主催「海イコ! マリン体験乗船会」が開催されました。スペシャルゲストにタレントの稲村亜美さんを迎え、大勢の方がシーカヤック、SUP、水上オートバイ、セーリングディンギー、モータークルーザーなどの魅力を体験しました。多数のメディアも参加しており、これらの媒体を通じて情報を発信することもこのイベントの狙いの一つです。

この体験乗船会は3回目で、過去には前田敦子さん、IMALUさんを招き、幅広い層にマリンの楽しさを伝える機会としました。

■イベントへの出席

毎年3月に神奈川県横浜市で開催される日本最大のマリンに関するイベント「ジャパン インターナショナル ボートショー」をはじめ、各地のイベントに出展し、UMI協議会や活動会員が実施している事業などを紹介しています。

■「マジ部」

リクルートが運営する「マジ部」は、19～22歳の若者にマリンスポーツ、スキー、ゴルフ、Jリーグなどを無料で体験できる機会を提供するサービスです。そのマリンのカテゴリーにUMI協議会として協力を行い、若者が気軽にマリンアクティビティを体験する機会を提供しています。

UMI協議会の今後

これまでの取り組みも情性で続けるのではなく、その効果も検証しながら、続けるものは続け、改めるものは改め、そして新たな取り組みにも着手していきたいと考えています。この『UMI協議会NEWS』の創刊はその一つ。次号からは、UMI協議会の活動会員の最新情報などを紹介します。海をめぐる関係各方面に幅広く発信し、当協議会のパワーアップにつなげたいと思います。

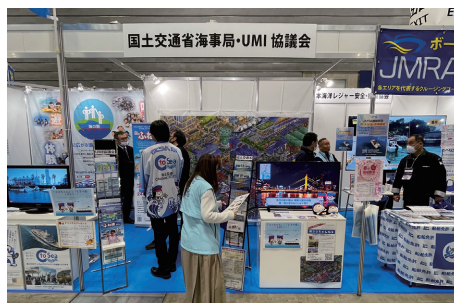


「海イコ!」





「海イコ！ マリン体験乗船会」



「ジャパン インターナショナル ボートショー 2025」



「マジ部」

UMI協議会リスト

■役員

会長 … (株) 舵社 田久保雅己

副会長(総務) … (公財) マリンスポーツ財団 梅田秀幸

副会長(業務) … (一財) 日本海洋レジャー安全・振興協会 安田公一

会計監事… (一社) 日本マリーナ・ビーチ協会 山下雅人

■活動会員



海の駅ネットワーク



(一社) 海洋連盟



(一財) 日本海洋レジャー
安全・振興協会



日本小型船舶検査機構



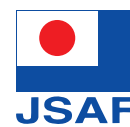
(公社) 日本サーフィン
連盟



(一社) 日本スタンドアップ
パドルボード協会



(一社) 日本セーフィ
パドルリング協会



(公財) 日本セーリング連盟



NPO法人
日本中古艇協会



(一社) 日本ブルー
フラッグ協会



(一社) 日本マリーナ・
ビーチ協会



(一社) 日本マリン事業協会



(公財) 日本ライフ
セービング協会



NPO法人 パーソナル
ウォータークラフト安全協会



NPO法人
マリンプレイス東京



(公財) マリンスポーツ財団

■賛助会員

(有) オージーディー、(株) 舵社、(株) GK 京都、(株) 電通東日本 静岡支社、(株) トオル・スタジオ、(株) ナビ、
(株) ネオリンク、(株) ボーディングクリエイト、(株) MILLIOT、ヤマハ発動機(株)、(株) ワイズ

■オブザーバー 国土交通省海事局船舶産業課舟艇室、国土交通省海事局総務課海洋教育・海事振興企画室、海上保安庁交通部安全対策課
■事務局 (一財) 日本海洋レジャー安全・振興協会

子どもや女性を含む新規来場者が大幅増

ジャパン インターナショナル ボートショー 2025



パシフィコ横浜会場



横浜ベイサイドマリーナ会場



こどもボート免許教室

「ジャパン インターナショナル ボートショー 2025」は、3月20日(木・祝)～23日(日)の4日間、神奈川県のパシフィコ横浜、横浜ベイサイドマリーナ、日本丸シーカヤックパーク、八景島マリーナの4会場を舞台に開催されました。64回目となる今回のボートショーには約200社・団体が出展。総来場者数は45,000人を超えて昨年より約1万人も増えたのみならず、初めてこのイベントに訪れた人が約5割となり、新たなマリンファンの創出につながることが期待される結果となりました。なお、今回のボートショーでは入場券を4日間入場が可能を通し券としたこともあり、熱心な来場者

が会場を複数回訪れるケースも増えたと考えられます。

子ども連れの家族でも楽しめるプログラムは全部で26種を実施。「こどもボート免許スクール」や「おえかき水族館」などに多くの参加者があり、子どもの総入場者数は全会場4日間合計で4,860人(前年比267%)と大きく伸びました。また女性向けプログラムも「レディースドライビングレッスン」などの女性応援企画が好評を博し、こちらの総入場者数も全会場4日間合計で10,446人(前年比148%)を数えました。

メインステージには、単独無寄港無補給世界一周ヨットレース「ヴァンデ・グ

ロープ」を完走した白石康次郎さん、パリ五輪セーリング競技・銀メダリストの吉岡美帆さん、そしてさかなクンなどの多彩なゲストが登場して、各自が得意とする分野のトークショーで海の魅力を伝えました。

UMI協議会にとっても重要なイベントであるボートショー、今回は下記の活動会員がブースを出展あるいはイベントに参加し、それぞれの立場でマリンの楽しさを発信しました。各社・各団体にとっては、業界の最新情報を入手するとともに、ユーザーまたはユーザー予備軍の人々と直接コミュニケーションを図ることができる貴重な機会だったことでしょう。

「ジャパン インターナショナル ボートショー 2025」入場者数(2会場)

2025年3月20日(木・祝)～23日(日)				2024年2会場 4日間合計
日程	2会場合計	内訳		
		パシフィコ横浜	横浜ベイサイドマリーナ	
3/20(木・祝) 晴れ	10,999	8,294	2,705	6,784
3/21(金) 晴れ	10,600	7,983	2,617	8,375
3/22(土) 晴れ	14,119	11,460	2,659	9,646
3/23(日) 晴れ	9,664	7,357	2,307	9,774
4日間合計	45,382	35,094	10,288	34,579

「ジャパン インターナショナルボートショー 2025」に出展したUMI協議会の活動会員

海の駅ネットワーク
 (一財)日本海洋レジャー安全・振興協会
 日本小型船舶検査機構
 (公財)日本セーリング連盟
 NPO法人 日本中古艇協会
 (一社)日本マリーナ・ビーチ協会
 (一社)日本マリン事業協会 [主催者]
 NPO法人 パーソナルウォータークラフト安全協会
 マリンジャーナリスト会議 [ステージイベント]
 (公財)マリンスポーツ財団

UMI協議会NEWS

No.1 2025.5
2025年5月15日 発行

UMI協議会 事務局
 (一財)日本海洋レジャー安全・振興協会
 〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町4-43 A-PLACE馬車道9階
 TEL.045-228-3061